

2009年度 東北大学法科大学院入学試験

試験科目：刑事法（刑法）

（事例）

2007年9月1日午後11時ころ、X（23歳・男性）は、Y（22歳・男性）及びZ（22歳・男性）と路上で雑談していたところ、酒に酔ったV（30歳・男性）と肩がぶつかったため、口論となった。しばらく、XとVとの間で口頭でのやり取りが続いたが、XがVに対して、「この酔っ払いオヤジが。お前みたいな奴が、ふらふら歩いてると迷惑なんだよ。」と言ったため、侮辱されたと思ったVは、いきなりXの顔面を右手で殴打し、鼻血を出してうずくまったXの腹部を右足で蹴り上げ、さらに攻撃を加えようとした。Xの傍でそれを見たYとZは、Vに対する怒りとXを助けなければという思いを抱き、YはVを背後から羽交い絞めにし、Zは「何やってんだ、こら。」と言いながら、Vの顔面を右手拳で一発強く殴打した。

Zの殴打を受けたVが、「何だよ、3対1じゃ卑怯じゃねえかよ。分かったよ。もうやめるよ。」と言い、全身の力を緩めたため、YはVから離れたが、怒りの収まらないZは、「なめてんじゃねえよ。」と言い、さらにVに攻撃を加える素振りを見せた。その様子を見たYは、Zに対して「おい、もうやめとけよ。」と言ったが、Zはやめず、Vの顔面を手拳で強く2、3発殴打した。自己が殴られてからの一連の様子を見ていたXは、VがZの殴打により口中から出血し、顔面を押さえてうずくまったのを見るや、「さっきは、よくもやってくれたな。」などと言いながら、Vに近づき、その腹部を左足で強く蹴り上げた。XがいきなりVを蹴り上げたのを見て驚いたYとZは、「さすがにやりすぎだろう。」と思い、Xをなだめて、3人でその場を立ち去った。

上記の一連の殴打等により、Vは鼻骨骨折、腹部打撲の全治2ヶ月の傷害を負った。

（問）

事例に挙げた事実関係を前提にして、X・Y・Zの罪責について論じなさい。